

◆アニメーション トイの歴史

2011年から入院中の子どもや障害の重い子どもたちに遊びのボランティアを提供するために設立し、世田谷を中心に活動を始めました。当初は在宅訪問し、遊びを自宅まで届ける活動もしてきました。

夏休みと春休みにはきょうだい児支援としての実験教室「科学で遊ぼう」を大学生と連携し開いてきました。

<コロナ禍>

コロナ禍の4年間は病児や障害児に対する活動はできなくなり、その中で新聞紙工作だけは継続し、新聞紙で作った作品などを奄美大島の病院へクリスマスツリーの飾りとして届けてきました。併せて小児科病棟に入院児へのクリスマスプレゼントを贈る取り組み継続してきました。

◆紙芝居を製作

内容は体の不自由な子どもたちが世田谷から長野県の千曲市へ4年間の長い間疎開したことをもとにし、現地調査や歴史的検証も含めて、12月2日に実演会を開きます。

数回学習会を開き、歴史的認識の違いなど討議を重ねてきました。作成は脚本家や画家の専門家に依頼していますが、みんなで議論を重ねて作るプロセスを大切にしてきました。

その基本は成長期の小学生から中学生の時期に親元を離れて、さびしい想いをしてきたことも紙芝居に盛り込み、子どもと戦争を自分事としてとらえることができる内容にしたい願いがありました。子ども自身が読み手になれる作品の完成をめざしています。



<実演会> 12月 2日

- ・語り継いでいこう 世田谷にもあった子どもたちの戦争
- ・新しい紙芝居「あんずの花につつまれて」の先行紹介（光明学校の4年間の学童疎開）

体が不自由な子どもたちが、戦火の激しい東京の親元を離れ、疎開後直ぐに全焼してしまった世田谷の校舎が復興されるまでの4年間、成長期を長野県上山田（現在千曲市）で過ごしました。

食糧難であった戦後の三年間、食料調達にリヤカーを押して中学生も同行し、農家の軒先でリンゴを頂いた。そのリンゴがおいしかったこと生涯忘れられない!! 人生の宝となり生きる支えになったと、年老いても疎開の体験を語っています。童謡「里の秋」、「赤とんぼ」、「村の鍛冶屋」はよく口ずさんでいた懐かしいメロディです。

◆2023年の主な活動

8月に新聞紙工作を小学校のサマースクールと小学校の近くの宮坂区民センターで、実験教室「科学で遊ぼう」と「紙芝居を作ろう」は国立成育医療研究センターの近くにある大蔵地区会館で開催しました。

10月11日にもみじの家でボランティア再開の説明会があり、アニメーショントイはスペシャルボランティアともみじの家での受付などを行うことにしました。

<感想>

小学校の新聞紙工作ではバッグを作りました。あらかじめ張り合わせた新聞紙の中から好みの絵柄を選び、空き箱を包んで形を整え、両面テープで組み立てました。子どもたちができばえに満足していることが笑顔や話し声から伝わってきてホッとしました。



小学校で



宮坂区民センターで